学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立余丁町小学校

■　学校の共通目標

授業づくり	重点	学習過程の各段階に適した「学び合い」の場を工夫して設定し、一人一人の参加を図るツールを工夫し、学びの共有化と深化を図る。	中間評価		最終評価	
環境づくり		多様な交流の場を設定し、相互評価等、児童相互がよさを認め合い高め合う活動を工夫し、支持的風土を醸成する。				

■　学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課　題（10 月）	改善のための取組み（10 月）	最終評価（２月）
1	国語				
	算数				

学年	教科	学習状況の分析（４月）	課　題（４月）	改善のための取組み（４月）	中間評価・追加する取組み（10 月）	最終評価（２月）
2	国語	学学習意欲が高く、進んで考えたり発言したりする児童、発言はしないものの話をよく聞く児童がいる一方で、課題への集中が足りず理解が追い付かない児童がいる。漢字学習への関心が高く、普段から習った漢字をつかおうとする姿勢が見られる。音読に進んで取り組むが、物語文や説明文の読解では、叙述に気を付けて大事なことを読み取ることができる児童と、そうでない児童に分かれる。書くことについては、身近な出来事を書くことに少しずつ慣れてきたものの、継続した取り組みが必要である。	学・漢字への関心は高く、言葉や短文作りに意欲的だが、正しく丁寧に書くことが定着していない児童が多い。漢字学習の時間以外でも字形に気を付けて書くことが課題である。 ・文を読むときに、言葉のまとまりを捉えて音読ができるようにさせたい。 ・物語文や説明文を読んだときに、書かれていることの大体を理解し、分かるように説明したり表現したりすることが難しい。 ・身近なことの中から、書くことの題材を見つけることができない児童がいる。	学・漢字の成り立ちや由来などにも触れさせ、関心を高める。書くときの字形のポイントを明確に示したり、普段から丁寧に取り組んでいる児童を称賛するなど、意欲を継続させる。 ・音読練習を家庭学習とし、毎日取り組ませる。音読発表を多く取り入れ、児童同士が聞きあう場面を設定する。 ・物語では場面分けを、説明文では問いと答えを明確にし、何が書かれているのかを理解させる。教科書の本文に着目させ、叙述を大事に読み取らせる。 ・題材が見つけられない児童には例示したり、時には例文を示したりして、モデルとなるいろいろな書き方に触れさせる。文を書くことの経験を多く積ませる。		
	算数	学学習に進んで参加する児童が比較的多いが、繰り上がりや繰り下がりの計算に苦手意識を持っている児童が、各クラス数人程度いる。文章問題においては、「分かっていること」と「きいていること」を明確におさえることで、立式に結び付けることができる。	学・計算力に個人差がある。 ・文章問題での立式が難しい児童がいる。	学・計算ドリルやプリント、簡単な暗算など、いろいろな計算練習に取り組ませる。家庭学習でも計算練習に取り組ませ、力をつけさせる。 ・文章問題では、「分かっていること」と「きいていること」にラインを引くなどの手立てをとり、正しく立式できるようにさせる。		
3	国語	調平成２８年度は、全ての領域で全国平均を上回っていた。Ｃ層とＤ層の児童を合わせると、全体の２５％だった。「言語事項」については、全国平均は上回っていたが、区の平均より０．５ポイント下回っていた。 学外国籍の児童が数名おり、その児童は、まだ、日本語が定着していない。提出される宿題や課題の状況を見ると、漢字の読み書きや言葉の意味等が十分定着していない児童が見られる。	調「言語事項」について、全国平均は上回っていたが、区の平均より０．５ポイント下回っていたこと。Ｃ層とＤ層が、全体の２５％おり、これらの層の学力向上を図ること。 学数名いる外国籍の児童に、まだ、日本語が定着していないこと。漢字の読み書きや言葉の意味等が十分定着していない児童が見られること。	・授業で出てくる聞き慣れない言葉は、意味や使い方を確認しながら、ユニバーサルデザインの発想を取り入れた授業を心掛ける。 ・毎日、漢字の書き取りや音読の宿題を出し、家庭で読み書きの学習をする習慣をつけるようにする。		
	算数	調平成２８年度は、全ての領域で全国平均を上回っていた。Ｃ層とＤ層の児童を合わせると、全体の２３．５％だった。昨年度の区学力定着度調査の結果を見ると、「量と測定」の領域が苦手な児童が多かった。 学提出される宿題や課題、ワークテストの状況を見ると、掛け算九九が十分定着していない児童が見られる。	調Ｃ層とＤ層が、全体の２３．５％おり、これらの層の学力向上を図ること。「量と測定」の領域の学力を定着させること。 学掛け算九九が十分定着していない児童に九九を定着させること。	・習熟度別クラス編成によるきめ細かな指導を行う。 ・授業では、巻尺、はかり、リットルます等を用いて実測する活動を多く取り入れる。また、ユニバーサルデザインの発想を取り入れる。 ・毎日、算数の宿題を出し、家庭でも学習をする習慣をつけるようにする。		

4	国語	調平成２８年度は、すべての観点において全国の平均を上回っていた。AB 層は７割をしめている。しかし、C 層は減っていたが、その分 D 層が増えていた。 学習った漢字を使い文章を書く児童が少なく、既習事項の定着が十分ではない。 学文章のつくりは理解できているが、同じ言葉の繰り返しで内容がまとまらない。	・与えられた情報を読み取り、必要な内容を補って文章を書くことや、相手や目的を意識して文章を書くことに課題が見られる。 ・生活の中で書く活動が少ないことが課題である。書き慣れないことや語彙の少なさも課題である。 ・漢字の読み書きや言葉の特徴やきまりについての理解に課題が見られる。	・「書く能力」に関しては、構成メモを活用した作文指導を取り入れ、書くことに慣れさせる。また、学習感想を書く場面を増やす等、自分の考えを文として表現する機会を設定していく。 ・国語辞典、漢字辞典を使い、言葉の意味を調べさせ、定着を図る。 ・「言語についての知識・理解・技能」に関しては、継続した家庭学習及びミニテストを実施し、定着を図る。		
	算数	調平成２８年度の調査では「量と測定」は１．４％、「図形」１％、新宿の平均を下回っている。 調平成２７年度と比較すると、A 層の割合が減り、C 層の割合が増えている。平成２８年度は AB 層が６割で C 層だけで約３割になっている。正当率が０～５０％が３名いる。 学全体的ではないが、基本的なことが定着できていない児童が見られ、掛け算の習得にもつまずきがみられる児童が２、３名いる。	・問題を読み、何を聞かれているのか理解することが必要である。 ・余りがない割り算は九九を使い、解くことができたが、余りがある割り算は、正答率が低く、基礎の定着をつけることが必要である。	・家庭学習で計算ドリルを活用し、知識理解の習熟を図る。 ・文章問題を繰り返し取り組ませ、アンダーラインを引きながら立式させる授業をつくっていく。		
5	国語	調平成 28 年度の正答率はすべての領域で全国平均を上回っていた。区の正答率と比べると、「読む能力」が 0.8%下回っていた。誤答分析を見ると、登場人物の気持ちの読み取りで 20%の児童が読み取れていなかった。 調平成 27 年度の調査では、「書くこと」に課題があるとされていたが、平成 28 年度の調査では、「書くこと」の正答率が全国平均よりも 8%、区の平均よりも 5%上回った。 学授業中のノートやワークシート等を見ると、習った漢字を使って文章を書くことが苦手な児童が多い。漢字テストにおいても、新出漢字は書けるが、既習漢字が書けない様子が見られる。	・漢字の読み書きが定着していない児童が多い。テストでは同音の漢字を当てて書いてしまう児童が多いので、漢字を「ことば」として理解していく必要がある。 ・学力階層の底上げが必要。C 層と D 層が全体の 32%となっているため、授業の中でどの層にも分かりやすいユニバーサルデザインの授業を取り入れていく必要がある。 ・自分の意見を相手に伝えることに抵抗を感じている児童が多い。	・家庭学習はもちろん、朝学習の短い時間に集中して学習する習慣をつけ、学習に取り組む姿勢を身に着けられるようにしていく。漢字テストを毎週行い、自分自身の学習定着度を理解できるようにしていく。 ・授業の中で、自分の思いや考えを友達に伝える場面を確保していく。少人数での対話から始め、様々な形態でコミュニケーションをとることで、楽しみながら学習に取り組むことができるようにする。 ・学習のねらいを明確にすることで、何をしたらよいのかを児童が理解し、主体的に学べる授業を作っていく。		
	算数	調平成 28 年度の調査では、算数に対する「関心・意欲・態度」が全国、新宿区を下回っている。また、C 層 D 層の児童が学年の 44%と多く、算数に苦手意識を感じている児童が多い。一方で、A 層は 42%と２極化している。 調領域別に見ると、「図形」の正答率が全国、新宿区より 4%下回っている。誤答分析を見ると、「垂直・平行と四角形」の問題で誤答が多く見られた。 学ワークテストを見ると、問題をきちんと読まなかったり、問題の意味が理解できなかったりするために解けない児童が多い。	・問題を読んで、何が分かっていて、何を求めなければならないのかを整理できるようにしていくことが必要である。 ・苦手意識を感じている児童が多いので、類似問題を解く等の活動を通して、自信をつけていく必要がある。 ・習熟が遅れている児童も、５年生の授業が理解できるように、補充したり、習熟度別の授業を工夫したりしていく必要がある。	・図形などの学習では、目に見えない部分を想像することが難しい児童が多いので、具体物を取り入れ、一つずつの学習を目で見て理解できるよう工夫していく。 ・家庭学習では、計算ドリルを繰り返し行い、学習を定着させていく。 ・分からないところは恥ずかしがらずに質問をし、みんなで学習していく雰囲気を作っていく。 ・見直しをする習慣をつけ、計算ミスや単位の間違い等に気付けるようにしていく。		
6	国語	調全ての観点・領域で新宿区の平均を上回っており、概ね良好な状況と言える。二極化傾向にあった分布も全体に底上げができてきている。しかし、AB 層で 8 割を超えているが、4 年からの経年変化を見ると、CD 層の底上げで B 層が増えているが、A 層の割合は変わっていない。 学学力調査では、他の観点よりも高い書く能力であるが、実際の文章表現では、文章のねじれや主述が呼応していないなど、課題が多い。	・主述や修飾・被修飾などを的確に押さえる力や叙述を適切に捉える力がやや不足する。より正確な叙述の読みや文章の組み立てや構成をはっきりさせて話すことなど、ねらいを明確にした指導が必要である。 ・生活上の言語活動の割合からも書く活動の少なさが課題である。書き慣れていないことや表現の仕方や言語事項への指導機会が少なく、正確で適切な表現ができない児童が多い。 ・漢字などの言語事項も習得率の低い児童ほど、家庭学習の定着が悪いなど、日常の学習習慣ができていない児童の学力低下が課題である。	・文章の読み取りでは、叙述を押さえる視点を明確にした指導を行い、根拠となる叙述や関連のある表現を押さえながら読む学習を取り入れる。また、文法的な言語事項の指導を、様々な領域の学習の中で意図的に取り入れていく。 ・短作文指導を年間指導の中に帯的に取り入れ、書く機会を増やすとともに、ポイントを絞り指導内容を明確にした文章を書く練習を繰り返す。 ・漢字は義・音・形の指導のシステムを作り、年間を通して行い、使える文字として習得させる。 ・語彙量を増やすために、日常的に辞書を活用する習慣作りをする。		

	算数	調全ての観点・領域で新宿区の平均を５～１０ポイント程度、上回っており、概ね良好な状況と言える。しかし、4 年からの経年では、AD 層の割合は変わらず、B 層がやや低下しその分 C 層が増えている。学習内容の難しさとともに学習理解が難しくなった児童が４名いることが分かる。また、D 層の 13%８名は固定化していて、系統性のある教科での底上げの難しさがある。 学　全体的な傾向ではなく、領域によって極端に学習成果が落ちる児童が４、５名おり、習熟度別クラスに分かれた際に、十分な理解度の把握ができず、適正なクラスに所属できていないことがある。	・D 層の児童に対する既習内容を習得させながら、新たな内容を学習させる手立てを講じる必要がある。家庭学習等の継続的な補充学習が必要であるが、学力が低い児童ほど、家庭学習等が定着しにくい傾向にある。 ・知識としての理解への努力で、ある程度の学力を維持してきた児童には、内容が抽象的になり数学的な思考力が必要になってきた段階で、理解できなくなる状況がある。	・家庭での学習状況に応じた家庭学習を設定し、家庭の協力を得ながら、授業内容の基礎的基本的内容を習得するための習慣作りを行う。 ・UDL の視点に立ち、習熟度に応じた適切なねらいを設定し、問題設定、解決過程のスモールステップ化などを行うとともに、CD 層の児童には、１時間に獲得させる内容を絞り込み明確にして、その他の障害となることについては、情報提供を行うなどして学習内容の習得を図る。 ・単元指導の中で、学習理解度を児童自身も指導者も評価する手立てとして、学習状況をメタ認知するための学習感想や習得状況を把握するためのミニテストなどを適宜取り入れる。		
音楽	学歌唱、合奏については意欲的に取り組む児童が多い。 読譜力の定着の低さが見られる。音楽づくりなど自分の発想を生かしたり、考えを述べたりする学習に苦手意識をもっている児童がいる。				
図工	学表現活動や、鑑賞活動については意欲的に取り組む児童が多い。 学年が上がるにつれ、平面作品、特に発想を生かした学習に苦手意識をもっている児童がいる。	低学年のうちから、多様な表現に挑戦させ、情操を養う必要がある。他の友達の作品や、著名な画家の作品を鑑賞することで、多様な表現があることを知り、豊かな発想を糸口として、表現する楽しさを感じさせる。	造形遊びの時間を確保し、様々な材料を経験させる。鑑賞の時間を十分に確保し、付箋を用いた子ども同士の意見交換を行う活動をする。		
特支	学病気療養による転籍のため、都度、前籍校での学習状況や定着度の確認が必要。	的確に実態を把握し、未定着課題を個に応じた学習環境や教材の工夫をし、定着させる。	日常的に個が取り組みやすい環境を整え、		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況　　※分量は 2 ページ以上となってもよい。